



三谷 健氏遺影
大正9年5月30日生
平成21年11月8日逝去90歳

故三谷 健 先輩を偲んで

一般社団法人日本技術者教育認定機構
代表理事会長

木 村 孟

三谷先輩に何時最初にお目に掛ったかはもうはっきりとは思い出せない。筆者の在職していた東京工業大学の土木工学科で、機械化施工の非常勤講師をお願いし、その講義のために東工大へ来られた時が最初であったように記憶している。ただ、そのかなり前から、恩師である最上武雄先生と山口柏樹先生から、三谷先輩のお噂はしょっちゅう伺っていたので、初対面の時、随分前から親しくして頂いている先輩のように思ったことはかすかに覚えている。いずれにしても40年位前のことである。恩師や専門が同じ大学人以外で、最も頻繁にお目に掛り、親しくお付き合いをさせて頂いた筆者より年上の方は、三谷先輩だけである。不思議と言えば不思議である。

三谷先輩は、一見豪放磊落のように見える。確かに、特に年上で社会的に強い立場の人に対してはほぼ例外なく豪放磊落に振る舞われたようである。三谷さんは建設省に入省され先ず土木研究所に入所されたが、当時同研究所には松村孫治さんという方がおられ所長を務められていた。松村さんは大変数学がお出来になった方で、世界的な業績を挙げておられる。そんなこともあって、他の方達より長く所長の座におられた。かねがねこれに腹を据えかねていた三谷先輩は、ある日所長室に飛び込んで、「いい加減に引退しなさい。若い人の人事が滞って困っているのは貴方も分かっておられるでしょう」と激しく迫られたそうである。ところが、松村さんもサムライである。「未だ、嫁に行っていない娘が二人もいる。そう簡単に辞められるか」と怒鳴り返されたそうである。昔は、こういうサムライがたくさんいたが、最近は殆どいなくなってしまう。このようなことも、日本の国がダイナミズムを失ってしまったことに繋がっているような気がしてならない。

三谷さんは、本質的には、豪放な性格の持ち主ではあったが、目下の人、社会的立場の弱い人たちには、優しくナイーブな方であった。よく若い人の言動をみておられ、その言動の度が過ぎるような場合には、それとなく人の生き方についての話をされる。間接的なアドバイスである。頭ごなしにおっしゃらないところが三谷さんのナイーブなところである。かくいう筆者も、一度大変貴重なアドバイスを頂いたことがある。東工大で教授になるのにしばらく時間がかかると見た某大学の友人から彼の大学へ来ないかという誘いを受けたことがある。恩師山口先生とは何でも話が出来る間柄であったので、そのことをよもやま話としてお話し申し上げた。この話はその後とんでもない方向に展開して行くことになるが、今回はそれについては触れないことにする。多分、三谷さんはその話を山口先生から聞かれたのであろう。後日お目に掛った時に、「木村君、自分の人事に口を出してはいかんぞ」とそれとない忠告を受けたが、脳天を一撃されたような衝撃を受けた。爾来この忠告は、筆者の人生の金科玉条として大事にしている。

三谷さんと言えば酒である。筆者は、東工大に職を得たころは酒が殆ど飲めず、ビール二杯位で苦しくなったことも再三再四であったが、お酒をこよなく愛されていた山口先生の薫陶宜しきを得て、その後かなり飲めるようになった。三谷先輩とのお付き合いが始まったころは、未だあまり飲めない時期で、三谷さんとの酒席は苦痛ですらあった。現在、施工技術総合研究所の技師長であり、同研究所になくってはならない存在である竹之内博行君の研究所への就職が決まった時、三谷さんから一度研究所へ遊びに来いというお誘いを受けた。研究所を一通り見学した後、例によってしたたか飲まされ、帰りの高速バスの中はまさに地獄であった。そんなことが数回あったが、その後こちらも利口になって、三谷さんと飲む時のコツを覚えた。要するに三谷さんを先に酔わせるといふか潰してしまえば良いのである。随分、酷い自己防御策があったもので、この作戦が三谷先輩の寿命を縮めるのではないかと心配したことも度々であるが、90歳というのは大往生であろう。少なくとも筆者はそう考えている。尤も、三谷先輩は黄泉で、「またあの木村の奴、怪しからんことをぬかしやがって」と苦笑されているかも知れない。また豪傑が一人筆者の周りから消えた。寂しい限りである。心からご冥福をお祈りする次第である。

略 歴

昭和 19 年 9 月	東京帝国大学 第一工学部 土木工学科 卒業
昭和 19 年 10 月	南満州鉄道(株) 入社
昭和 24 年 3 月	建設省 土木研究所 入所
昭和 31 年 6 月	建設省 東北地方建設局 磐城国道工事事務所長
昭和 37 年 8 月	建設省 近畿地方建設局 企画室長
昭和 39 年 4 月	(社)日本建設機械化協会 建設機械化研究所 (現施工技術総合研究所) 副所長
昭和 45 年 4 月	同研究所長
平成 8 年 5 月	同協会最高顧問および同研究所最高顧問